

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月11日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20242012

研究課題名（和文） 画像解析とフィールドワークに基づく荘園絵図情報システムの構築

研究課題名（英文） A Developing Study for Japanese-Estate-Maps' Information System(JEMIS) based-on their analysis and field surveys

研究代表者

高橋 敏子（TAKAHASHI TOSHIKO）

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：80151520

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、荘園絵図の原本調査・現地調査および関連史料の調査に基づいて研究の基盤となる荘園絵図のトレース図・積文図・解説の作成と公開を行うこと、そして成果公開・研究支援のためのシステム構築方法を研究することである。今回、「薩摩国日置北郷中分絵図」の地域での現地調査を実施した結果、下地中分線について、従来の諸説とは異なる見解を見出す成果をあげたほか、荘園絵図研究に必須の地名情報を収集し蓄積するシステム「地理情報蓄積システム」を構築した。調査の総合的な成果公開は『日本荘園絵図聚影』積文編（中世）として史料集の刊行を準備中である。

研究成果の概要（英文）：One purpose of this research is to create and disseminate tracings, annotated drawings, and explanations of estate maps based on materials from investigations of the original maps, actual sites, and related documents. In addition, we intend to study how to build systems for research and presentation support. In this project, site surveys of "Hioki Kita-go in Satsuma Province" revealed some new findings about territorial borders between the estate proprietor and the military steward (jitô). We also constructed a "Geographic Information Storage System" to collect more information on place names that are critical to the study of estate maps. We are currently preparing to publish the overall results of this research in book on the historical interpretation of medieval Japanese estate maps.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	11,300,000	3,390,000	14,690,000
2009年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2010年度	10,600,000	3,180,000	13,780,000
2011年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
年度			
総計	34,100,000	10,230,000	44,330,000

研究分野：日本中世史

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：荘園絵図、トレース図、積文図、荘園絵図模本、薩摩国日置北郷中分絵図

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本における荘園絵図研究は、1930年

代の西岡虎之助らによる開拓的研究から段階を追って進められてきたが、それらは、考

察の基礎となる絵図テキストの整備状況に大きく規制されてきた。荘園絵図の全体像と個々の記述・描写を把握できるものとして、長く基本とされてきた史料集は、西岡虎之助編『日本荘園絵図集成』上下巻（東京堂出版1976・77年）であったが、これは西岡が収集した絵図の模写を中心として編集されており、その後の絵図読解研究の進展は、模写ではなく、絵図原本自体の情報を必須のものとしていた。

そこで、絵図原本の写真の網羅的収集とその影印版刊行を実現したのが、史料編纂所編『日本荘園絵図聚影』本編全7冊（東京大学出版会 1988年～2002年）である。次いで、この影印版を基盤として、それらの積文編（解説編）の編纂が継続し、2007年には『日本荘園絵図聚影』積文編1（古代）が刊行された。積文編は、影印版で実現した絵図の網羅的収集の成果を、さらに絵図の深い読解に基づくトレース図・積文の作成に集約するものであり、その中世絵図部分の刊行が要請されていた。

(2) 一方、デジタル技術の発展を踏まえて、荘園絵図の研究環境は新たな段階へと進んできていた。史料編纂所の研究グループでは、先行する科研基盤研究において、「史料編纂所所蔵荘園絵図模本データベース」を開発し、主な絵図模本を web 公開するとともに、「東郷荘総合情報閲覧システム」も開発して、DVD化し、教育現場・研究者から高い評価を得た。したがって、本研究の開始時点における次の課題は、「総合情報閲覧システム」において実現した、異なる時代の地図を並列し比較対照して見せる方法や、関連史料・画像・動画へのリンク機能などを、模本データベースに応用し Web 上で展開する方法の開発であった。

2. 研究の目的

本研究は、東京大学史料編纂所が収集してきた約 300 点にのぼる荘園絵図の写真・精細画像・関連情報を基盤とし、先行する基盤研究「荘園絵図の史料学とデジタル画像解析の発展的研究」（代表者林譲 2004～2007年度）の成果を継承しながら次の発展的課題に取り組み、かつその成果の公開や研究支援のシステム構築方法についても研究しようとするものであった。

その具体的な目的は、次の二点である。

- (1) 荘園絵図研究の現在の水準においては欠かすことのできない絵図の原本調査・荘園の現地調査を実施して情報の集約・分析研究を行い、その成果を整備・公開する。
- (2) 近年のコンピュータシステムの進展も考慮し、画像や関連情報など、研究成果の公開システム構築の方法についても研究を行なう。

3. 研究の方法

研究の目的にあげた 2 点に即して、本研究で選択した方法は、次のようなものである。(1) 荘園絵図の原本調査・現地調査・関連史料の収集を実施し、その成果を集約したトレース図と積文図を作成することである。従来のトレース図は、絵図情報を単純に線描化したものであるが、本科研によるそれは、日本画家との共同作業により、タッチなども考慮したより詳細な観察に基づくものとなっており、絵図が描かれた過程を復元する手法でもある。絵図原本の写真・影印版が研究の第一の基盤であるとするれば、この調査の成果を集約したトレース図・積文図は研究の第二の基盤であるといえる。

(2) 研究成果の公開システムの開発・構築を、当研究グループが拠点とする史料編纂所のコンピュータシステム (SHIPS) 上の各種データベースとの連携を重視したシステムとして設計する。

4. 研究成果

(1) 荘園絵図の原本調査は、宮内庁書陵部、金澤文庫、滋賀大学経済学部附属史料館、京都国立博物館、京都府立総合資料館、京都大学総合博物館、奈良国立博物館、和歌山県立博物館、山口県文書館、大分県立博物館、佐賀県立博物館、そして光明寺、醍醐寺、東寺、西大寺、八坂神社等々の各機関・寺社、その他個人の所蔵絵図について、本研究グループで試行しマニュアル化してきた方法で実施した結果、角筆や下書き線の存在、写真では確認できない詳細な描写、筆跡、折り目・紙継目等々の新たな知見を得ることができた。

(2) 現地調査については、対象地域を限定して重点的に取り組んだ。①薩摩国日置北郷 ②伯耆国東郷荘 ③越後国奥山荘である。このうち①については、現地の景観と近世の地誌情報とから、従来の絵図解釈を変更する見解を見出し、大きな成果をあげた。これは、本科研で新たに採用した最新のデジタル機器類によって得られた成果でもある（雑誌論文④⑤参照）。また②③地域についても、これまで未調査の中世文書や近世絵図の調査を実施することができた。本科研の期間には十分な検討が未了であったが、さらに今後分析を進めていく予定である。

(3) トレース図の作成は、新たに 75 点の絵図について日本画家との共同作業を行った。そのトレース図をベースとして積文を加えた積文図の作成についても、次の (4) の準備作業として順次実施することができた。

(4) (3) のトレース図・積文図を基盤とした (1) (2) の総合的な成果公開のひとつとして、

2012年度より『日本荘園絵図聚影』積文編(中世)の刊行を予定しており、編纂が進行中である。

(5) 先行する科研において、本研究グループが開発した「史料編纂所蔵荘園絵図模本データベース」の画面表示を改良し、空撮データを新たに搭載した。

(6) 研究開始当初計画した「史料編纂所蔵荘園絵図模本データベース」上に「東郷荘総合情報閲覧システム」で実現したさまざまな機能を応用し研究成果を公開する方法については、本研究グループが依拠する史料編纂所のコンピュータシステム(SHIPS)の運用管理の問題や、汎用性を重視するweb公開においてはコスト等の課題が多かったため、こうした機能の実現を将来に見越した上で、まず荘園絵図研究に必須の地名情報を収集し蓄積する研究支援のシステムを構築することとした。その結果、2010～2011年度にかけて、「地理情報蓄積システム」を設計・構築することができた。本システムは、史料編纂所のSHIPSデータベースとAPIを介して連携しており、登録データの典拠情報ほか各種メタデータを自動付与することが可能となっている。このシステムの開発により、既存の地名辞書の体系とは独立した、より現実の史料に即した帰納的な地名情報の蓄積が可能となった。従来の地名辞書に位置づけられなかった地名を検出・蓄積することができると期待されるとともに、地名情報を必要とするさまざまな研究支援に応用できる発展的なシステムであると考えている。

今後は、開発した「地理情報蓄積システム」を、現在公開している「荘園絵図模本データベース」の側から利用できるようなインターフェイスを開発する必要がある。この「地理情報蓄積システム」は、地理情報を有効な研究素材とする他の研究にも応用できる汎用性を備えており、そうした課題と連携しながら、このシステムを発展させていくことが必要となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計11件)

- ① 榎原雅治、南朝系比丘尼御所保安寺について―一世良親王の遺領に関する一考察―、『国史学』、査読有、203号、2011年、pp.1-36
- ② 伊藤瑠美、「豊前国野仲郷絵図(断簡)」『豊前国宇佐宮放生会次第図』調査報告、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』、査読無、53号、2011年、pp.10-12
- ③ 村井祐樹、崇福寺所蔵「東寺寺内敷地図」、『東京大学史料編纂所研究紀要』、査読無、

21号、2010年、pp.83-87

- ④ 高山さやか・井上聡、「薩州日置郡吉利郷惣絵図」デジタル撮影報告、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』、査読無、50号、2010年、pp.17-20
- ⑤ 井上聡、「薩摩国日置北郷絵図」現地調査報告概況、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』、査読無、48号、2010年、pp.19-21
- ⑥ 石川徹也・赤石美奈、「歴史知識学」の特集にあたって、『人口知能学会誌』、査読有、25巻1号、2010年、pp.1-4
- ⑦ 石川徹也、歴史知識Ontology構築研究―その論理と実際―、『情報文化学会誌』、査読有、15巻1号、2008年、pp.6-11

[学会発表] (計5件)

- ① 西田友広、下地中分絵図の世界、湯梨浜町歴史講演会、2012年3月11日、鳥取県湯梨浜町中央公民館
- ② 榎原雅治、日本の古風景、変容する水辺、国立大学共同利用・共同拠点協議会、2012年2月17日、京都大学東京オフィス
- ③ 井上聡・高橋敏子・西田友広、画像史料解析センターのプロジェクト研究―その成果と課題―、シンポジウム「研究と情報の資源化―史料編纂所大型プロジェクトの進捗―」、2010年1月30日、東京大学山上会館
- ④ 藤原重雄、掛幅本「鞍馬寺縁起絵」模本について、中世掛幅縁起絵研究会シンポジウム「中世説話画研究の現在―模写・トレース・復元―」、2009年12月12日、学習院大学
- ⑤ 藤原重雄、飯田市美術博物館所蔵「聖徳太子絵伝」トレース図作成について、講演会と研究報告「中世説話画研究の可能性」、2008年9月15日、飯田市美術博物館

[図書] (計9件)

- ① 高橋典幸・西田友広・井上聡・他共著、『列島の鎌倉時代』、高志書院、2011年、pp.24-49・pp.50-69・pp.172-201
- ② 佐野みどり・新川哲雄・藤原重雄編『中世絵画のマトリックス』、青簡舎、2010年、pp.104-142
- ③ 高橋典幸・他共著『史跡で読む日本の歴史6 鎌倉の世界』、吉川弘文館、2010年、pp.43-73・pp.212-241
- ④ 太良荘史料集成編纂委員会(須磨千穎・松浦義則・高橋敏子)、『若狭国太良荘史料集成』第二巻、小浜市教育委員会、2009年、340ps.
- ⑤ 横山伊徳・石川徹也編『歴史知識学ことはじめ』、勉誠出版、2009年、pp.1-15
- ⑥ 高橋典幸、『鎌倉幕府と御家人制』、吉川弘文館、2008年、311ps.

⑦ 榎原雅治、『中世の東海道をゆく』、中央公論新社、2008年、242ps.

[その他]

ホームページ等

<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 敏子 (TAKAHASHI TOSHIKO)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：80151520

(2) 研究分担者

林 譲 (HAYASHI YUZURU)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：00164971
榎原 雅治 (EBARA MASAHARU)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：40160379
石川 徹也 (ISHIKAWA TETSUYA)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：20041808
鴨川 達夫 (KAMOGAWA TATSUO)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：60214566
西田 友広 (NISHITA TOMOHIRO)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：90376640
(H20→H21：連携研究者)
井上 聡 (INOUE SATOSHI)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20302656
(H20→H21：連携研究者)
藤原 重雄 (FUJIWARA SHIGEO)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：40313192
(H20→H21：連携研究者)
高橋 典幸 (TAKAHASHI NORIYUKI)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：10292799
(H20→H21：連携研究者)
村井 祐樹 (MURAI YUUKI)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20323660
(H20→H21：連携研究者)

(3) 連携研究者

大内 英範 (OOUCHI HIDENORI)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：60462173
(H23)

村岡 ゆかり (MURAOKA YUKARI)
東京大学・史料編纂所・技術専門職員
研究者番号：00422436
谷 昭佳 (TANI AKIYOSHI)
東京大学・史料編纂所・技術専門職員
研究者番号：70532670
(H22・23)
出田 和久 (IDETA KAZUHISA)
奈良女子大学・文学部・教授
研究者番号：40128335
青山 宏夫 (AOYAMA HIROO)
国立歴史民俗博物館・研究部・教授
研究者番号：00167222
高橋 一樹 (TAKAHASHI KAZUKI)
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授
研究者番号：80300680
羽田 聡 (HADA SATOSHI)
京都国立博物館・学芸部企画室・研究員
研究者番号：30342968
清水 亮 (SHIMIZU RYO)
埼玉大学・教育学部・准教授
研究者番号：90451731
山田 太造 (YAMADA TAIZO)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構・本部・特任研究員 (特任助教)
研究者番号：70413937
(H23)